

令和8年度 施政方針

2月20日に開催された市議会本会議で、八谷恭介市長が令和8年度の施政方針を述べました。その一部を抜粋して紹介いたします。
(全文は市ホームページに掲載しています)

はじめに

令和8年度当初予算案ならびにこれに関連します諸議案のご審議いただくに当たり、私の市政運営に対する所信と主要施策の概要についてご説明申し上げ、議員各位、ならびに市民の皆さんのご理解、ご協力をたまわりたいと存じます。
昨年4月、私は多くの市民の皆さんのご支持をたまわり、市政のかじ取り役という重責を担わせていただくこととなりました。



シヨン創出などを推進する方針を示しております。

同時に、足元の物価高騰への対策として、生活者の負担軽減、エネルギー価格の安定化、中小企業支援などを通じ、生活者および事業者への支援を継続しております。

また、県においては16年ぶりに知事が交代され、新たに横田美香知事が県政を担われることになりました。引き続き、人口減少対策や交流人口の拡大などを重点施策に位置付けるとともに、一方で、令和8年度を「農地整備元年」と位置づけ、地域を目指すべき農業と農地利用の将来ビジョンの作成支援を開始すると明言されており、今後の施策展開を注視しております。

今後、国や県の施策動向を的確に踏まえつつ、安心・安全な暮らしを支える効果的な対策を講じるとともに、地域経済の活力向上と産業の構造転換、次世代の人材育成を進め、未来へとつながる確かな道筋をお示しできるよう、令和8年度当初予算の編成に努めました。

主要施策の概要

次に、令和8年度の主要な施策につきまして、第3期長期総合計画(案)でお示しした3つの柱に従ってご説明します。

この約10カ月の間、市民・事業者の皆さんとの対話に努め、現場の声に耳を傾けながら、市政運営に邁進してまいりました。

その中で常に念頭に置いてきたのは、市民の皆さんが抱えるさまざまな課題について、優先順位を明確にしながら、着実に解決を図りつつ、この地域が未来につながっていくための成長の道筋を描くことでございます。

それには、「まちづくり」の旗振り役である市役所の改革が何よりも急がれると考え、個々の職員が尊重され、能力を十分に発揮できる職場づくりや、直面する行政課題に的確に対応できる組織体制の構築に力を注いでまいりました。

まだまだ、緒に就いたばかりではございますが、さまざまな対話を通じて、職員の自発的な取り組みも形になりつつあり、推進力を備えた組織としての第一歩を踏み出したと感じております。

こうした市役所改革と並行して、市民の皆さんとともに目指す本市の将来像を描く、「第3期庄原市長期総合計画」の策定を進めてまいりました。

策定に当たりましては、令和6年12月に、市民や市内各団体の代表、有識者で構成する「庄原市長期総合計画審議会」に諮問し、約1年をかけて議論いただき、先日2月2日に答申を受けたところでございます。

安心な暮らしの充実

第一の柱は「安心な暮らしの充実」です。全ての市民が健やかに、そして安全に暮らせる地域社会を構築します。

子ども子育ての分野では、子ども、子育て家庭や、子育てにかかわる全ての人がつながり、支え合い、子どもや若者が心身ともに健やかに育つま

ちを目指します。
そのため、「こどもまんなか社会」の実現に向け、全ての妊産婦、子育て世帯、子どもに対し、母子保健・児童福祉の両機能が一体となり、専門的な相談対応や、継続的なソーシャルワークによる指導・助言、幼児の発達に関する相談支援および関係機関との連絡調整などを行う「こども家庭センター」を設置し、組織体制の強化を図り、子育て世代を支える取り組みを推進します。

また、国が進める乳児などを対象とした通園支援制度が、令和8年度から本格実施されることを受け、本市におきましても、全ての子どもを育ちを応援し、保護者の多様な働き方やライフスタイルにかかわらず、子育ての支援を強化するため、就労要件を問わず時間単位などで柔軟に利用できる「こども誰でも通園制度」を実施いたします。

さらには、施設の老朽化や多様な



第3期庄原市長期総合計画策定に係るワークショップ

新たな総合計画では、今、本市に暮らす全ての人が、「安心な暮らし」に満たされ、そして、本市に住む人のみならず、本市とさまざまな形で関わりを持つ多くの人も本市に魅力を感じ、将来の可能性を育み、展望を描ける「まち」にしたいという願いを込め、「めざす将来像」を「安心な暮らしが充実し、庄原に関わる人の未来が広がっていくまち」としてまいります。

今後、総合計画でお示した「安心な暮らしの充実」「将来に希望が広がっていく仕組みづくり」「市民の期待に応え、将来を担う人的資源の育成」の3つの柱に従って、さまざまな施策を展開してまいります。

さて、現在、私たちを取り巻く社

ニーズに対応するため、子育て支援センターと放課後児童クラブを一体的に整備する「東城子育て支援施設」の実施設計および敷地造成工事にも着手いたします。

福祉・介護の分野では、社会情勢が変化する中でも、誰もが住み慣れた地域で自分らしく生活し活動できる社会、安心して暮らせる地域の維持・発展を目指します。

そのため、令和9年度を始期とする「地域福祉計画」「障害福祉計画及び障害児福祉計画」「高齢者福祉計画・介護保険事業計画・認知症施策推進計画」の策定を進め、今後の福祉施策の方向性をしっかりと定めてまいります。

また、社会問題化している「ひきこもり」への支援を目的とした居場所づくりや、ネットワークの強化などに取り組んでまいります。

ウエルネスの分野では、市民一人一人が心身の健康を維持し、安心して生活ができる環境づくりのため、専門機関と連携した情報提供や、予防医療・メンタルヘルスケア、さらには彩りある人生を送るための生きがいづくりの推進を目指し、「ウエルネス社会」の充実に努めます。

そのため、感染症対策として新たにRSウイルス母子免疫ワクチンの公費負担制度への追加や、西城市民病院の医師確保対策などによる医療体制の充実に取り組めます。

また、田園文化センターへのWi-Fiや、市民会館大ホール用プロジェクト機器の整備などにより、施設機能の充実を図るとともに、各自自治振興センターにおける生涯学習事業の推進や各種スポーツ活動への参加機会の拡充に取り組む、生きがいを実感できる環境づくりを推進してまいります。

生活基盤の分野では、生活拠点の維持や、公共インフラの維持・整備、誰もが必要な時に必要な場所へ移動できる地域公共交通の実現に向け、市民の生活基盤の充実を図ります。そのため、JR利用促進対策事業において、鉄道ネットワークの維持存続に向けた取り組みを進めるとともに、「第2期庄原市地域公共交通計画」に基づき、地域の特性に応じた効率的で柔軟な交通サービスに努めてまいります。



総領地域を運行する「こまわりくん」

明確化を最優先課題に位置づけ、リモートセンシングを活用した立木および土地の所有権界などの調査を実施し、森林整備の推進と計画的・安定的な木材生産を図ります。

また、高性能林業機械などの導入促進により、作業の効率化や生産性向上を図り、若手林業家の人材の育成と定着につなげてまいります。さらに、森林伐採後の植栽による再造林を支援し、循環型林業の一層の推進を目指します。



商工業の分野では、中小企業者などを対象に事業継続や創業に向けた支援策を講じ、市内の商工業の振興と地域経済の活性化を推進します。

特に、市内での新規創業や第二創業に取り組み起業家を支援することで新たなビジネスや雇用の創出を目指します。

また、本町板橋線の改良による安全な歩行空間の確保や、市営住宅の整備により、都市機能の維持・向上を図り、市民の安全で安定した生活環境の形成に努めます。

地域経済の分野では、生活との関係性が深い農業の維持や、地域に根差した域内経済循環の促進による暮らしの豊かさの拡大を目指します。

そのため、地産地消の推進による農業の次世代継承を目的として、新たに地域承継型農業支援事業に取り組むほか、手入れが不十分な森林の水源かん養や土砂災害防止、広葉樹の利活用と再生など、森林の公益的機能を維持・増進させるための「ひろしまの森づくり事業」の推進を図ります。

また、農林業経営にとって非常に深刻な課題である有害鳥獣対策については、捕獲作業の労力軽減を図るため、デジタル技術を活用したスマート捕獲などの活用に取り組みます。

さらには、生活に身近な商品を取り扱う小売業や、飲食業などの地域に根差した事業者を支援し、域内経済の好循環を創出するため、本市独自のキャッシュレス決済カードである「なみかほろか」の利用拡大を推進し、地域経済全体の活力を向上させてまいります。

防犯・防災・減災の分野では、犯罪抑止の取り組み強化や、災害に強いまちづくり、安全安心な地域づく

また、商工団体や市内企業で構成する「庄原でいきいき働く協議会」などを通じて市内の労働力の確保に努めるなど、官民連携による基盤産業の確立に努めてまいります。

併せて、中小企業の経営基盤の強化と事業成長を後押しし、商業と工業の双方において域外との競争力が高まるよう支援してまいります。さらに、民間事業者や関係団体との連携強化を図り、産学官金労などの多様なステークホルダーによる協力体制を構築するとともに、産業の成長戦略の策定に向けた取り組みを推進してまいります。

観光の振興の分野では、庄原DMOをはじめとする観光事業者などと連携を強め、本市ならではの資源を活用した観光地域づくりを、関係者一丸となって力強く推し進め、観光消費額の増加につなげてまいります。

交流宿泊施設「桜花の郷」・「フォーレ庄原」の魅力向上のため、庄原産材を活用した施設改修や、交流拠点施設における計画的な設備更新などを実施し、施設の維持やさらなる魅力化を図ってまいります。

産学官連携の分野では、本市の地域資源の活用や地域課題解決につながるイノベーションの企画・実行・実装を進めてまいります。

そのため、しよばら産学官連携推進機構を活用し、市内外の関係者と接点を持ちながら、大学などが有

りを目指します。

昨年6月に東城町粟田地区で発生した痛ましい殺人事件が、いまだ解決されない状況であることを踏まえ、家庭用防犯機器設置補助金の新設により、犯罪抑止を図る取り組みを一層強化し、市民の防犯意識を高めます。

また、消防施設の計画的整備と自主防災組織の活動支援を進め、地域防災力の充実を図ります。

自治・協働の推進の分野では、持続可能な住民自治の在り方について模索する中で、地域住民の安心な暮らしが守られるよう、まちづくりを進めてまいります。

また、まちづくり活動や生涯学習活動の拠点施設である自治振興センター施設の維持管理や、一層の機能向上を図ります。

ダイバーシティ・インクルージョンの分野では、「多様性」と「包摂性」を尊重し、市民一人一人の人権確立への取り組みを進めるとともに、インターネット上の人権侵害や性的マイノリティへの理解など、多様化する課題に対し、さらなる人権啓発活動に努めてまいります。

また、令和9年度を始期とする「第3次男女共同参画プラン」を策定し、あらゆる分野で誰もが自分らしく輝ける社会の実現を目指すとともに、外国人住民が地域で安心して暮らすことができるよう、多文化共生社会

する学術的知見と民間企業体などの先新的な技術のマッチングや、若者や子育て世代の交流の場を想定した拠点づくりなどに取り組みます。

人口減少への適応の分野では、移住・定住の促進、関係人口の創出、都市機能の再編により、人口が減少する時代であっても、人口減少に適応した持続可能で豊かな地域社会の実現に向けて取り組みます。

併せて、県立広島大学庄原キャンパスとの連携をより深めつつ、中心市街地の都市機能の維持・充実を図ってまいります。

庄原ファンクラブ事業では、会員のさらなる獲得を目指し、地域の困りごと解決プラットフォーム「ひばサポ」の構築や、市外の子どもが短期間、市内の保育園などに通いながら、家族で地域に滞在できる「保育園留学」などの取り組みにより、関係人口と市民や地域をつなぐ仕組みづくりを行います。



に対する理解を深めてまいります。さらに、戦後80年が経過した今、戦争の体験と被爆の実相の承継を含め、恒久平和への継続的な啓発に努めてまいります。

◆ 将来に希望が広がっていく 仕組みづくり ◆

第二の柱は「将来に希望が広がっていく仕組みづくり」です。

農林業をはじめとする地域産業の振興と官民連携による新たな経済成長への取り組みをエンジンとして、地域経済が潤いを取り戻すことで、まちの活性化が、市民に希望を与え、プロセスを構築し、このまちを将来につなげてまいります。

農林業の分野では、持続可能で競争力のある農業経営の確立に向けた農業振興対策と、もうかる農業の基盤形成、そして林業では、森林の境界明確化と担い手育成を推進してまいります。

主要産業である農業では、スマート農業機械など新技術の導入によりコストの低減や生産効率・品質の向上を図り、生産基盤を強化する「戦略型成長農業推進事業」を進めます。

併せて、比婆牛や庄原ブランド米など、これまで育んできた貴重な地域特産品の生産規模の拡大などに取り組みます。

林業におきましては、森林境界の

◆ 市民の期待に応え、 将来を担う人的資源の育成 ◆

第三の柱は「市民の期待に応え、将来を担う人的資源の育成」です。

「安心な暮らしの充実」や「将来に希望が広がっていく仕組みづくり」は、「人」が育まれる「まち」があったこそ叶うものと捉えています。

子どもから大人まで、希望する全ての人が学び続け、成長できる環境を整えてまいります。

次世代教育の分野では、子どもたちが健やかに育つよう、安全で快適な学校環境の整備や保護者の負担軽減に取り組みます。

そのため、学校施設の長寿命化計画に基づき、東小学校体育館を改修するほか、小・中学校トイレ洋式化工事の実施や、小・中学校体育館の空調整備に向け、実施設計などを進めます。

また、学校給食については、国の学校給食費負担軽減事業により、市内小学校の給食費の負担を軽減するとともに、本市の独自事業として、中学校の給食費の負担軽減を新たに実施します。

リカレント教育の推進の分野では、生涯学習機会の提供に努め、現役世代やリタイヤ世代が主体的に学び直しに取り組めるよう、多様な学習機会の確保・提供に努めます。

グローバル人材の活躍の分野では、

次代を担う世代の外国語教育の充実や、国際感覚に富みグローバルな視点を持つ人材の育成を図ります。
ふるさと愛・誇りの分野では、本市に愛着や誇りを持ち、暮らし続けたいと願う人を増やすとともに、さまざまな分野で活躍し、市民の希望につながる人材が育成・輩出されるまちを目指します。

そのため、シティプロモーションの総合マネジメントにより、ふるさと「庄原市」の効果的な発信基盤とプラットフォームの構築を進めます。

また、芸術・文化・スポーツで活躍する人材の育成を支援するため、優れた芸術・文化・スポーツに触れる機会を充実させます。

さらに、郷土学習の出前講座や民俗芸能の公開、デジタルアーカイブによる文化財の保存・活用を促進し、ふるさととの歴史・伝統文化を後継者へ継承します。

これまで述べてまいりました「まちづくりの三つの柱」を実現するためには、常に最小の経費で最大の効果を上げる行政経営が求められます。そのため、組織体制の見直しとともに、職員一人一人の実行力を高め、挑戦と改善を促す風土を醸成し、まちづくりのけん引役として市民の皆さんの負託に応えてまいります。

また、本年度から取り組んでいる「行政経営改革大綱」の策定により、

▼四つ目は、『庄原版コンパクトネットワークの推進』人口が減少しても持続可能な「まち」となるよう構造転換を推進し、

この事業では、市域全体を俯瞰し、まちの構造転換のためのビジョンを明確化することで、中心市街地や支所周辺など一定の人口規模を持つエリアの暮らしや産業の機能を向上させます。

全国的に見ても、多くのまちで人口減少に伴う産業の衰退が、生活サービスなどの維持を困難にしています。本市も同様に、生活に必要なサービスを提供する施設や店舗の撤退により、生活拠点の機能や利便性の著しい低下が予測されます。

これに対し、市民が安心して日常生活を営み、豊かさを実感できるまちにしていくため、中心市街地における都市機能の充実と、支所周辺における生活拠点機能の維持、公共交通などを利用できる環境づくりに取り組めます。



行政サービスの利便性と迅速性を高めつつ、限られた財源の中で持続可能性を確保し、変化の大きい時代を乗り越える市役所を目指してまいります。

5つのリーディングプロジェクト

第3期長期総合計画にお示した「めざす将来像」を実現するためには、これまで申し上げてまいりました分野ごとの施策を着実に推進することはもとよりでございますが、本市の四季折々の豊かな自然環境に育まれた食材と観光資源、そして多様な教育機関など、本市の持つ強みや特徴を生かし、他の自治体にはない魅力を創りあげ、競争力を高めることが重要となつてまいります。

言い換えれば、他の自治体に対して比較優位に立つための、まさに戦略といえる取り組みを実施し、具体的な成果を上げていくことが不可欠です。

こうした観点で構築したのが、5つのリーディングプロジェクトであり、頭文字をとって「PEACE-Full」と名付けました。

この名称には、「平和で安心なまちづくりをさらに充実させ、未来につながる希望があふれるまちづくりを進めていく」という想いを込めており、「リーディング」の名のとおり、

▼最後に、『地域の将来を見据え、子どもの進路実現をかなえる人材育成の推進』教育環境の充実やキャリア教育等の実施でふるさとへの愛着を形成し、

この事業では、児童生徒の教育環境の充実や地元企業や農業団体、観光などと連携した職場体験やインターシップ事業、市内小・中学校と県立学校・県立広島大学との連携推進などにより、地域と連携した教育プログラムの実施、地域人材の育成に取り組みとともに、ふるさとへの愛着形成を目指します。

本市は豊かな自然と歴史的な文化資源に恵まれた地域である一方、高校以降の進路先が少ないことから、進学などを機に若年層が流出するといった状況が続いており、加えて、希望する仕事の選択肢との関連から市内の子どものUターンにつながりにくい状況となっております。

市民の期待に応え、将来を担う人材を育成していくため、子どもたちが自己実現できるようしっかりとした教育環境を整える取り組みを進めてまいります。

おわりに

以上、令和8年度の主要な施策の概要を申し述べましたが、本市を取り巻くさまざまな環境が厳しさを増す中にあるため、市民の皆さんに実感

先導的な取り組みを分野横断的に進め、本市の将来像の実現を加速化させる役割も担うものでございます。

令和8年度は、プロジェクトのスタートの年と位置づけ、

「PEACE-Full」始動

をキヤッチフレーズに、これらの取り組みを市民や事業者の皆さんのご理解とご協力の下で推し進めてまいりたいと考えております。

▼二つ目の事業は、『庄原ブランドの推進』庄原の魅力を発信し、市民の誇りと愛着を形成し、

庄原に関わる人が誇りと愛着を持ち、魅力を発信することで、庄原に「つながりたい」「行ってみたい」「住みたい」という、人の流れの創出を目指します。

そのため、庁内推進体制の整備や市民参加体制の構築、「シティプロモーション構想」の策定およびこれに基づく具体的な事業を展開し、誇りと愛着、発信をより一層高め、さらなる成果を生み出す好循環を形成します。

▼二つ目は、『食料とエネルギー自給の推進』生き抜き力と豊かさを実現する仕組づくり、

この事業は、本市の「食」と「エネルギー」の自給を推進し、新たな視点で市民の幸福度を向上させる取り

ただける成果を生み出すためには、市民、事業者の皆さんはもとより、多様な主体と連携した施策を展開していくことが重要であり、市政やまちづくりの参考とするため、広く市民の皆さんからのご意見をお寄せいただく「市民と市長をつなぐ提案箱」の実施や、市内商工団体の皆さんとは、暮らしの豊かさを生み出す地域経済の発展について連携強化に関する意見交換をさせていただきました。

一方で、さまざまな知見や人的資源を有する地域外の皆さんとの連携も重要と考え、地域活性化の新たなパートナーといたしまして、株式会社モンベル、プロ自転車ロードレースチーム、ヴィクトワール広島と、それぞれ包括連携協定を締結いたしました。

こうした取り組みを通じ、観光・交流の促進、関係人口の拡大、地域産業の競争力強化、そして市民の皆さんのウェルビーイングの向上につなげてまいります。

併せて、官民連携による新たな価値創造を進め、地域全体の好循環を実現してまいります。

本市の目指す大局的な方向性につきましては、長期総合計画・基本構想および基本計画（案）という形でお示しすることができました。

このたび、「新たな視点を取り入れた未来につながる予算編成」において、具体的な取り組みをお示しできるまでに時間を要しましたが、このまちを

組みでございませう。再生可能エネルギーの自給率を向上させ、市民の食料とエネルギーの支出を抑えることで、「選択的支出」の増加を図り、経済的な豊かさを実感できる取り組みを進めます。

本市は、県内有数の農畜産物の生産地であり、豊富な水・森林資源に恵まれております。

こうした強みを生かし、市場に出回らない農産物を低価格でシェアする仕組づくりや、バイオマス発電、小水力発電の実現可能性を調査・研究してまいります。

▼三つ目は、『観光の基盤産業化の推進』観光消費額を増額させる戦略づくりに、

この事業では、宿泊・交通・飲食・体験・お土産など、裾野が広い観光産業の基盤産業化を、オール庄原市で前進させます。観光消費額の増加が市全体の経済的な豊かさにつながるよう、官民が連携したプロジェクトをスタートさせてまいります。

豊かな自然に育まれた本市の農畜産物や自然環境は高く評価されており、農林業などの産業と観光産業との効果的な連携により、地域外から外貨を獲得し、市内に還元できる強い産業へと育てるため、第3期庄原市観光振興計画の策定および観光消費額増額のための戦略づくりに取り組めます。

より良くするためには、まずは大きな方向性を確認し、総合計画において丈夫な「幹」を作ったうえで、枝葉がしっかりと茂るような、「骨太の政策」を打ち出すことが必要との認識で進めてまいりました。

今後、施策や事業の実施に当たっては、データや仮説に基づく政策立案を組織内部に浸透させ、さまざまな取り組みに対して優先順位づけを徹底することで、PDCAサイクルに則した事業検証と継続的な改善を行い、効果が発現し成果が見える形で市政運営を前進させてまいりたいと考えております。

結びとなりますが、議員各位、そして市民の皆さんにおかれましては、市政運営に對しまして、何卒、深いご理解と力強いご支援、ご協力をたまりませんよう、心からお願ひ申し上げます。私の施政方針演説といたしま

